



地球の歩き方

Arukikata Travel Guidebook

Special Edition

Taito,
Tokyo

江戸たいとうの歩き方

蔦屋重三郎

NEW!

蔦屋の足跡をたどる!

江戸情緒あふれる
粋なまち台東区



Gakken



General information

江戸・吉原で夢を追った

版元・蔦屋重三郎とは



蔦屋重三郎プロフィール

蔦屋の版元印



蔦屋が出版したことを示す版元印。富士山の下に蔦の葉が描かれている

山東京伝『箱入娘面屋人魚』に描かれた蔦屋重三郎（以下、蔦重）。冒頭で版元として口上を述べている

はこいりむすめ 人魚にまきよう
山東京伝『箱入娘面屋人魚』
(1791) / 国立国会図書館

1750年、吉原（現在の台東区千束）に生まれる。出自を生かし、吉原に集う多くの文化人と交流することで、後世に残る本や浮世絵を版元として送り出した。新たな才能を発掘することにも長け、のちにトップ絵師となる喜多川歌麿や東洲斎写楽をプロデュース。江戸文化を盛り上げ、庶民を熱狂させた。



『此奴和日本』に描かれた「耕書堂」。吉原大門のそばにあったため、吉原に訪れた人は皆通る

こいつわにほん
大田南畝『此奴和日本』
(1784) / 国立国会図書館

1772年 22歳

吉原大門前に「耕書堂」を開業

義兄が営む引手茶屋の店先を借り、貸本屋を始める。仕事の幅を広げ、数年後は数軒隣に独立した店を構えるようになる。

大金で色男を装う男の物語である山東京伝の『江戸生艶気樺焼』は最高傑作と名高い



気山
樺焼
山東京伝
江戸生艶気
（1785）
東京都立中央図書館

1780年 30歳

出版業を拡大 黄表紙の出版を開始

吉原のネットワークを活かし、顔なじみの作家に黄表紙などの戯作を依頼。以降、次々ヒットを飛ばすことになる。

吉原で生まれた蔦重のあゆみ

開業期

飛躍期

1774年 24歳

吉原細見の編集を担う 処女作『一目千本』刊行

吉原の茶屋や遊女を紹介した吉原細見の編集を任される。その後、吉原遊郭の宣伝のために妓楼からの出資を受け『一目千本』を出版する。



北尾重政「一目千本」
（1774） / 大阪大学附属図書館
人気絵師・北尾重政が作画を担当した絵本形式の遊女評判記

1783年 33歳

耕書堂が日本橋に進出

吉原細見の独占出版を開始。耕書堂は、老舗書店が並ぶ日本橋通油町（現在の日本橋大伝馬町）に進出し、江戸を代表する地本問屋となる。

浅草庵作、葛飾北斎画『画本東都遊』
(1802) / 国立国会図書館



・発行：台東区 令和8年度登録 第35号 制作：地球の歩き方 写真・図版・イラスト：台東区、地球の歩き方、PIXTA
・各出版物、各作品には出典を明記しております。制作年が不明のものは「年不詳」と記載しております。／表紙イラストモチーフ出典：山東京伝『箱入娘面屋人魚』（1791、国立国会図書館）／東洲斎写楽『三代目大谷鬼次郎の江戸兵衛』（1794、トリボラン美術館）／喜多川歌麿『婦女人相十品・ポッピンを吹く娘』（18世紀、ColBase）



「狂歌」は和歌に笑いや風刺を取り入れたもので、武士や町人などの粋人が遊びとして嗜んだ。「黄表紙」は、ナンセンスな笑いが詰め込まれた大人向けの絵入り小説。

台東区と鳶屋重三郎の関わり

鳶屋が稀代のエンタメ王として名を馳せた背景には、吉原で生まれ育ったことが深く関係している。当時の吉原は幕府公認の遊郭街でありながら、浮世絵や文学、芸能といった最先端の文化・トレンドの発信地でもあった。流行や新しいものに関心のある人々、多彩な人材が集まるその環境は、まさに「文化のゆりかご」。この地で鳶屋は文化人とのネットワークを築き上げ、数々の傑作を世に送り出したのだ。



北尾重政、勝川春章『青楼美人あわせすまじかから合姿鏡』(1776) / ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

1793年 43歳

喜多川歌麿の美人大首絵を発売

処罰を受け一転、浮世絵の市場に本格参入。歌麿の才能に目をつけ、美人画をバストアップで描く大首絵のスタイルを確立させた。

喜多川歌麿『江戸三美人・富本豊雛、難波屋おきた、高しまおひさ』(18世紀) / ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

江戸で有名だった三美人、芸者の豊雛、浅草の水茶屋のおきた、両国の煎餅屋のおひさを描いた



歌麿と写楽の浮世絵はなにがすごい？

歌麿の描く美人画は女性の内面まで感じさせる繊細さが、写楽は大胆な構図とデフォルメによる個性的な表現が人々に受けた。

1787~93年 37~43歳

寛政の改革による出版統制

松平定信による倭約政策の中、風紀の取り締まりが行われるように。鳶屋の発行物も発禁処分を受け、財産を没収されるなど厳しい処分を受けた。

1797年 47歳

脚気により病没

前年からの脚気が悪化し、1797年5月6日に他界。晩年には曲亭馬琴や十返舎一九の黄表紙を刊行した。

絶頂期

試練期

再挑戦期

1794年 44歳

東洲斎写楽の役者大首絵を発売

歌舞伎の興行に合わせて描いた役者絵で写楽をデビューさせる。わずか10か月の活動期間で140点以上の作品を残したのち、写楽は忽然と姿を消した。

写楽の代表作『三代目大谷鬼次の江戸兵衛』。背景には黒雲母の粉末を用いた雲母摺が使用され、役者を引き立てている

東洲斎写楽『三代目大谷鬼次の江戸兵衛』(1794) / メトロポリタン美術館

鳶屋とゆかりの人々・相関図

絵師

喜多川歌麿

鳶屋に寄宿、美人画でスター絵師となる

絵師・作家

山東京伝

鳶屋の盟友。さまざまな作品を残した

絵師

東洲斎写楽

鳶屋が見出した絵師。全作品が鳶屋から刊行された

作家

曲亭馬琴

鳶屋に奉公。のちに「南総里見八犬伝」で人気を博す

絵師

葛飾北斎

鳶屋が才能を見出し、2代目鳶屋のもとで活躍した

作家・学者

平賀源内

エレキテルの復元などで知られるマルチクリイター

狂歌師

大田南畝

武家出身で天明狂歌ブームのスター。寛政の改革で活動を断念



鳶屋重三郎



初代鳶屋の死後、番頭の勇助が2代目を継ぎ、葛飾北斎の作品などを出版。その後出版業は廃れていったものの、鳶屋の名は5代目まで続いた。

歴史と伝統が息づく“粋”なまち

台東区 見どころMAP

江戸時代より上野、浅草を中心に、東京らしい文化や歴史、伝統が発展してきた台東区。その代表的な見どころをエリアごとに紹介しよう。

ノスタルジックな
街並みが残る

谷中エリア

江戸時代の寺町としての歴史を色濃く残し、古い木造家屋などが点在する下町情緒あふれるエリア。古き良き街並みが今も残り、谷中銀座商店街は、食べ歩きや散策で人気のスポット。



谷中銀座商店街

住 台東区谷中 3-13-1

アクセス JR 線・都営舎人線・京成線「日暮里」駅から徒歩5分、東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩5分



文化や芸術、自然にあふれた

上野エリア

動物園が有名な上野恩賜公園には美術館や博物館などが集まり、自然、芸術、文化が調和する憩いの場。もとは徳川幕府の安泰と万民の平安のために建立された寛永寺の境内地だった。



上野恩賜公園

住 台東区上野公園 5-20

アクセス JR 線・東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅から徒歩2分、京成線「京成上野」駅から徒歩1分



橋の向こうに見えるのが寛永寺とその桜。江戸時代から、人々は花見のために上野に集まった

鳥文斎栄之「上野三枚橋之図」(年不詳) / 国立国会図書館



上野、谷中エリアは江戸城から見て北東（鬼門）にあり、江戸を守る重要な地として神社・仏閣が多く配置された。



喜多川歌麿「婦女人相十品・ポッピンを吹く娘」(18世紀)
ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

蔦屋重三郎の故郷・吉原

蔦屋が生まれ育った吉原は、きわめて文化水準の高い土地であった。現在の台東区千束周辺にあたる「吉原エリア」には、今も蔦屋のルーツや吉原の歴史をたどることができるスポットが残っている。



吉原神社



© 浅草寺

浅草寺

住 台東区浅草 2-3-1

アクセス 東武スカイツリーライン・東京メトロ銀座線・つくばエクスプレス・都営浅草線「浅草」駅から徒歩5分

下町情緒と活気に満ちた

浅草エリア

約1400年の歴史を持つ浅草寺を中心に栄えた門前町。雷門から続く仲見世通りや人力車での下町めぐり、日本最古の遊園地・浅草花やしきなど、江戸情緒と現代の活気が交差する一大観光地となっている。

伝統とモダンが融合する

蔵前エリア

江戸時代には幕府の米蔵があり、経済の中心地として栄えたエリア。現在は古い建物をリノベーションしたカフェや工房などが立ち並び、「東京のブルックリン」として親しまれている。



柳橋

住 台東区柳橋 1丁目2丁目

アクセス JR線・都営浅草線「浅草橋」駅から徒歩4分

「江戸たいとう」について



江戸たいとう

「江戸たいとう」とは、江戸から現代に続く台東区内の多彩で粋な伝統・文化、産業、観光などの総称で、台東区のアイデンティティになっています。

データ欄の記号

住 住所 電 電話番号 営 営業時間または開館時間 休 定休日 アクセス 行き方



吉原はもともと日本橋近くにあったが、明暦の大火の被害を受け浅草北部へ移転した。移転前を「元吉原」、移転後を「新吉原」と呼び、一般的に「吉原」といえば新吉原を指す。

葛重が生きた江戸・吉原を歩く

江戸・吉原は文化と流行の発信地として栄えたエリア。

多くの文化人との交流を通して江戸文化を担った、葛重の生まれた町を歩いてみよう！



ようこそ
おいでくださった



2 正法寺で葛重の 墓碑にお参り

葛重は1797年、47歳で病没し、実母のつよ、妻のていと共に正法寺に眠っているが、復刻された墓碑にお参りすることができる。

住 台東区東浅草 1-1-15
電 03-3873-4488
営 9:00 ~ 17:00

墓碑には石川雅望と
大田南畝による碑文が
刻まれている



水路で吉原へ

歌川広重（初代）『名所
江戸百景 浅草川首尾の
まつおんまやがし
松御殿河岸』（1856）
／国立国会図書館



START!

浅草寺を抜けて 吉原方面へ

出発は浅草寺から！雷門を抜けた仲見世商店街で、腹ごしらえをするのもよし。



1 山谷堀公園で猪牙舟の レプリカをチェック

公園にある
猪牙舟のレプリカ

かつては山谷堀と呼ばれる水路があり、猪牙舟を利用して吉原へ遊びに行くことが粋とされた。1975年頃に埋め立てられ細長い公園に生まれ変わる。

住 台東区東浅草 2-7 先～浅草 7-11-12



見返り柳は、かつては山谷堀の土手沿いに植えられていた。震災や戦災により焼失し、現在の柳は6代目とされる。

江戸・吉原めぐり

かつて吉原として栄えたエリアでは、史跡めぐりが楽しめる。ぐらりと堀と堀で囲まれた吉原へと足を踏み入れる、当時の江戸っ子の心持ちに浸って歩いてみたい。



吉原の全景が描かれた作品。現在の様子と比べてみるのもおもしろい

歌川広重 (二代) とうと しんよしわらいちらん『東都 新吉原一覽 (部分)』(1860)

／台東区立図書館デジタルアーカイブ

① 見返り柳

吉原の名所のひとつ。遊郭の客が、帰り道で名残惜しそうに後ろを振り返ったことからこの名が付いた。

住 台東区千束 4-10-8

② 五十間道と耕書堂跡

見返り柳から吉原大門へ続く五十間道はS字にカーブし、外から吉原が見えないようにされていた。この通りに高重は耕書堂を開いた。



住 台東区千束 4-11 付近

③ 吉原大門跡

吉原遊郭の出入り口は大門1か所。現在は大門の柱を模した街灯が設置されている。

住 台東区千束 4-15 付近



通りには引手茶屋の提灯が並んでいた。春は夜桜見物で賑わった

④ 吉原神社

遊郭に存在した5つの稲荷神社と隣接する吉原弁財天が合祀されている。春には逢初桜が見事な花を咲かせる。

住 台東区千束 3-20-2

電 03-3872-5966

営 10:00 ~ 16:00



地元有志から奉納された狐像
名前は「逢」と「初」



歌川国貞 (三代豊国) 『北廓月の夜桜』

(江戸時代・19世紀) /

ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

5つの稲荷神社のうち、縁結びの神様として人気だった九郎助稲荷の参拝前に、手水で身を清める遊女たち

北尾重政、勝川春章『青楼美人合姿鏡』(1776) / 国立国会図書館



五十間道の長さは約90mで、両側には引手茶屋や小料理屋などが並んだ。現在もカーブした道が残っており、当時の面影を感じることができる。

“葛重ゆかりの地”めぐり

台東区には葛重だけではなく、彼に影響を与えた人物や彼が見出した人物、影響を受けた人物にまつわる史跡や施設も多くある。代表的なスポットを紹介しよう。



平賀源内の墓 +エレキテルトイレ

当時多方面で活躍する有名人だった平賀源内は、葛重が初めて出版に携わった吉原細見『細見嗚呼御江戸』に序文を寄せ、そのデビューに花を添えた。不遇な最期を迎えた源内の墓は、台東区橋場に残されている。

源内先生の後押しのおかげで、葛屋はその後立派に江戸で花を咲かせましたよ

平賀源内が復元したエレキテルをモチーフとした石浜公園のトイレ



往 台東区橋場 2-22-2 営 開錠時は見学可能



往 台東区清川 1-14-21



浅草寺

都内最古の寺院で、年間を通じて国内外の観光客で賑わう。本堂にはご本尊である聖観世音菩薩が祀られ、国の重要文化財の二天門や雷門、五重塔、宝蔵門など見どころ満載。



©浅草寺

江戸時代は境内に見世物小屋や芝居小屋が立ち、庶民にとってテーマパークのような場所だった

寛永寺

徳川将軍家の菩提寺で、葛重が生きた時代に天下を治めた10代将軍・家治や11代・家斉が葬られている。将軍家の参詣に加え、庶民にも開かれた寺であるよう、大仏や清水の舞台、桜などが境内に整えられた。



根本中堂では、創建400周年に制作された天井絵「叡嶽双龍」が一般公開されている

往 台東区上野桜木 1-14-11

電 03-3821-4440

営 9:00 ~ 17:00 (根本中堂・事務所)



歌川広重の『名所江戸百景』に描かれた清水観音堂の舞台。枝が円を描く月の松の奥に不忍池が見えている

歌川広重(初代)『名所江戸百景』
うすの しまずどうしのぼすの いけ
上野清水堂不忍ノ池 (1856) /
国立国会図書館



山東京伝机塚の碑 (浅草寺)

版元と作家という関係を通り越し、志を同じくする盟友として葛重と固い絆で結ばれていた山東京伝。浅草寺内には彼を偲ぶ「机塚の碑」があり、そこには京伝が生前に著した愛用の机についての小文が刻まれている。

碑の表面には「この机で100を超える戯作を書いた」と記されている

住 浅草寺本堂裏



© 浅草寺

寛政の改革で過酷な刑を受けながらおもしろさを追求する、あなたは私の真のパートナーだよ



住 台東区元浅草 4-6-9



葛飾北斎の墓 (誓教寺)

北斎が若いころ、葛重の出版物の表紙絵を担当。その後、葛重が写楽という新しい才能に出会い、北斎は挿絵画家として活躍する。葛重死後、2代目と多くの作品を刊行し、耕書堂を支えた。その北斎は元浅草の誓教寺に眠る。

彼に関わったのは彼の長いキャリアの一時だったけど、私の目に狂いはなかったね



江戸時代の木版画で、世界的に知られる富士山をテーマにしたシリーズの一枚

葛飾北斎『雷獄三十六景 神奈川沖浪裏』(1830-32) / メトロポリタン美術館



住 台東区上野公園 9-88

電 03-3822-3455

営 9:00 ~ 17:30 (3 ~ 9月)、9:00 ~ 16:30 (10 ~ 2月)

上野東照宮

徳川家康を祀るため、1627年に藤堂高虎と天海僧正により建立された。上野恩賜公園内にあり、江戸時代からこのあたり一帯は、庶民が花見や参拝に訪れる人気スポットだった。

CHECK

猿若町

葛重が没した50年ほど後の天保の改革により、江戸市にあった芝居小屋が移転してきて芝居町を形成。江戸歌舞伎の聖地となった。



住 台東区浅草6丁目付近

一葉記念館

樋口一葉は葛重と同じく吉原にゆかりを持つ作家。代表作『たけくらべ』には吉原遊郭の入り口に佇む「見返り柳」が物語冒頭の印象的な一節に登場する。



© 一葉記念館

住 台東区竜泉 3-18-4 電 03-3873-0004

営 9:00 ~ 16:30 (入館は 16:00まで)

休 毎週月曜 (祝休日と重なる場合は翌平日)、年末年始および特別整理期間中



歌川重政『東都繁栄の図』(1854)
／ 国立国会図書館



info 戯作者、浄瑠璃作家でもあった平賀源内は、さまざまなペンネームを使い分けていた。『細見鳴呼江戸』には、浄瑠璃作家としての「福内鬼外」の名で序文を寄せている。

江戸たいとうの四季を楽しむ

浮世絵に見る伝統行事

江戸情緒を感じさせる台東区の代表的なイベントをご紹介します。江戸の庶民にとって、四季を感じるこれらのイベントは、日々の暮らしの最大の楽しみであったに違いない。



吉野を模して桜が植えられた寛永寺境内。江戸時代から、多くの人が花見に訪れている。この絵は上野の山おのり池の畔、
溪斎英泉「東都花暦 上野清水之桜」（年不詳）／国立国会図書館

うえの桜まつり

上野恩賜公園／3月中旬～4月上旬

寛永寺の天海僧正が奈良の吉野山から桜を移植させ、上野の山は江戸随一の桜の名所になった。現在、上野恩賜公園一帯では約1200本の桜が楽しめる。

三月



さんじゃまつり 三社祭

浅草神社／5月中旬

3日間延べ約180万人の人流を数える、日本を代表する祭礼のひとつ。神輿約100基が町内を練り歩き、浅草が熱気に包まれる。

五月



下町浅草が1年でもっとも活気づくと言われる、台東区的一大イベント

江戸時代から人気の入谷の朝顔を描いた名作。新橋の芸者・福助が朝顔を鉢に持っている



大蘇芳年「東京自慢十二月
六月 入谷の朝顔」（1880）
／国立国会図書館

七月



入谷朝顔まつり

入谷鬼子母神周辺／7月6日～8日

江戸末期ごろから観賞用として朝顔を盛んに栽培してきた入谷で、戦後復活した日本最大の朝顔市。入谷鬼子母神（真源寺）周辺が朝顔を買い求める人で賑わう。

約100軒の朝顔業者と露店が軒を連ね、色とりどりの朝顔が咲き誇る

info うえの桜まつりは夜桜も人気。桜並木にポンボリが点灯されるほか、不忍池の沿道の桜もライトアップ。物産展などさまざまなイベントも催され、朝から晩まで楽しめる。



七月

隅田川に納涼船や屋形船が多く浮かぶ。「玉屋」「鍵屋」の掛け声も有名に
一立斎広重「新撰江戸名所 両国納涼花火ノ図」(年不詳) 国立国会図書館



隅田川花火大会

隅田川 / 7月下旬

日本最古の花火大会。1733年に8代将軍・吉宗が両国川開きの日に花火を打ち上げたことが起源。毎年100万人を超える人が訪れる東京の夏の風物詩でもある。

十一月

とりの
酉の市

鷺神社・長國寺 / 11月の酉の日

鷺神社や長國寺で開催される酉の市。開運、商売繁盛、恋愛成就、健康などのご利益を願い、境内は熊手御守を買い求める参詣者で大いに賑わう。



酉の市は江戸から続く年中行事。熊手は「富をかきあつめる縁起物」として庶民から親しまれた

歌川国貞(三代豊国)「十二月ノ内 霜月酉のまち」(1854) / 国立国会図書館

とし
歳の市(羽子板市)

浅草寺 / 12月17日～19日

毎月18日は観世音菩薩の縁日。なかでも12月は「納めの観音」と呼ばれ、参拝者が多い。江戸末期ごろからは羽子板が市の主役になった。

歌川国貞(三代豊国)、歌川広重(二代)「江戸自慢 歳市(羽子板の市)」(年不詳) / 国立国会図書館



浅草の歳の市を描いた作品。正月用品を買い揃える人々が浅草寺に集まっている

十二月

まだまだある！
そのほかの
主なイベント

1月

- 1日～上旬：
七福神詣
(谷中、下谷、浅草名所七福神)
- 1日～2月下旬：
冬ばたん
(上野東照宮ばたん苑)

2月

- 上旬：節分
(浅草寺ほか)

3月

- 中旬～4月上旬：
隅田公園桜まつり
(隅田公園)

4月

- 上旬～5月上旬：
春のぼたん祭
(上野東照宮ばたん苑)
- 上旬：白鷺の舞
(浅草寺)
- 中旬：浅草流鏑馬
(隅田公園)

6月

- 上旬：鳥越祭
(鳥越神社)

7月

- 9、10日：四万六千日・ぼおずき市
(浅草寺)

8月

- 中旬：隅田川とうろう流し
(吾妻橋～言問橋間)
- 下旬：浅草サンバカーニバル
(馬道通り～雷門通り)

10月

- 中旬：谷中まつり
(谷中地区)

11月

- 3日：白鷺の舞
(浅草寺)

12月

- 31日：除夜の鐘(寛永寺、浅草寺ほか)



羽子板の羽根は虫を食べるトンボに形が似ていることから「悪い虫(病気)を払う」という意味がある。また、先端の豆には「まめに暮らす」の願いが込められ、古くから縁起物として扱われてきた。

TAITO CITY 2026

定価：PRICELESS

(本体 0 円 + 税 0 %)



EDOTAITO-N0-ARUKIKATA



TSUTAYA-JUZABURO

葛屋重三郎 ゆかりの地コース

正法寺・五十間道・耕書堂跡
など葛重ゆかりの地を巡ります。

区公認のガイドが
無料で
ご案内します！



正法寺

台東区ボランティアガイドと巡る、 歴史と文化のまち歩きツアー

吉原神社



吉原巡りコース

葛重の生まれ育った地を
探訪します。

浅草南部葛重 巡りコース

さらに深掘り！
葛重ゆかりの人物のお墓などを
巡るコースです。



誓教寺

台東区観光
ボランティアの会

お問い合わせ
TEL：03-3842-5599
(平日 10 時～16 時)
FAX：03-6673-3046

<https://taitouboragai.com>
お申し込みはこちらから→



台東区の
文化・観光情報
はこちら

Instagram
江戸たいとう
@edo.taito



台東区文化芸術
総合サイト
たいとう文化
マルシェ



台東区公式観光
情報サイト
TAITO
おでかけナビ

